

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家		
所在地	静岡県袋井市大野2730番地の4		
自己評価作成日	2020/11/16	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600315-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 12月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として係ることであることすべてのことを出来る限り家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。その為には、御家族の協力を得、相談・報告を密にするよう心掛けています。理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き、押し付けたり、拘束の無い自室にいるような気持ちで生活が出来る様支援し皆様の好きな食事等も手作りで御利用者様がかかわれるような家庭的な支援をしています。生活の中で利用者様に介護の事を学ばせて頂きながら、誠心誠意のサービスを提供し地域の福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は田畑が広がり、近くに保育園や小学校があり、コロナ前は交流ができていた。防災面でも地域と連携ができています。また、コロナ前はボランティアが来てくれ、地域の行事にも積極的に参加していた。職員同士は何でも言い合え、年齢に関係なく考えあい、教えあう関係でコミュニケーションが取れている。101歳の利用者の支援に意見を出し合っって対応している経験が職員の自信に繋がっている。利用者のADLを下げないようにでんでん体操や嚙下体操など毎日行っている。開設当初から食事は手作りで、利用者も包丁を使ったり、調理をしたりとできることは継続してもらっている。協力医は認知症に理解があり、相談にのってくれ、安心である。地域包括支援センターが主になって情報交換の場を作ってくれ、研修や講演会に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つに「地域の駆け込み寺になろう」があるが地域で介護困難になって待っているご家庭の駆け込み寺になっている。満床時は他の施設等に紹介している。	開所当初に作られた理念で、理念は事務所や職員トイレに貼ってあり、職員に意識してもらっている。現状は地域の住民が何かあった時に相談ができ、頼りにされている。また、職員が入りたい事業所になるように職員は努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方と一緒にでんでん体操に参加していたが、コロナで今は参加出来ない。散歩に出かけて近隣の方と挨拶を交しています。	事業所の南側は交通量が少なく、利用者の体力に応じてコースを選択し、季節の花を見て楽しみながら散歩に出かけ、近所の住民に会うと挨拶を交わしている。コロナ前は近くの保育園や小学校との交流もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職場体験の受入れに認知症の方との直接触れ合ってもらったり、生活ボランティアの受入れも行っているが、コロナで自粛している。コロナ終息後は、以前の通りに受け入れをしていく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見・提案・指摘事項については職員に知らせ話し合いをしてサービス向上に活かしています。	現在は市からのアドバイスを受け、書面開催をしている。自治会長、副会長、民生委員、包括支援センターの職員が毎回参加、家族は時々参加してくれる。市役所の職員は半年に1度参加してくれる。会議の内容は職員会議で伝え、参加者には議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関して相談や報告を通して市の担当者との関係を築いている。ホームの事情や取り組みを報告し防災など他の部署への橋渡しを担って頂いている。	市役所のしあわせ推進課や介護保険課、防災課と連絡を取り合っている。包括支援センターから研修のお知らせやチラシが渡される。事業所の建物が地域の避難所になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合いを正しく理解し身体拘束しないケアに取り組んでいる。利用者様の安全を守るためには出入口は階段もあり、道路沿いということで玄関の開閉は自動ではなく、手動にしている。	指針は本部が作成し、各フロアーに整備している。委員会は館長、計画作成者、他職員で3ヶ月に1度開催し、議事録を回覧しサインをもらい、その後各ユニットで話し合いを行う。研修は年2回行い、職員はレポートを提出している。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられている。職員は意識して虐待防止に努めている。また、法人には関係者への通達や取調のシステムが出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者個人の必要性が生じた場合に制度活用に向けて関係機関への連絡相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時、ホームの特色など含め契約内容の説明を十分している。契約内容変更の時には事前に説明を行い理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回お便りとして配布させて頂いている(松葉便り)では近況報告とともに写真を取り入れカラー印刷することによりビジュアルで伝えることが出来ている。	お便りを発送しているので、家族に喜ばれている。コロナ禍でも感染に気をつけ、窓越しの面会を継続している。面会に来られない家族には電話連絡を行なっている。	コロナ禍で家族が満足に面会に来れず、利用者の様子がわからないとアンケートにあったので、写真を増やし、言葉を添えて、生活の様子がわかるようなお便り作りを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要な時には随時個人面談を行い要望や提案を受けようとしている。	職員との個別面談は年に1回行なっている。気になる職員には管理者やホーム長が声かけをしている。毎月の全体会議では活発に意見が出ている。ユニット会議は必要があるときに随時行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当が与えられるなど意欲向上が図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けている。研究補助規定を設け、各種研修参加を推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他の事業所の管理者と情報交換の機会があり、その内容を事業所の職員に報告している。また職員は勉強会、研修会などを通して交流を図りサービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に官界か本人と会う機会を設け、本人の想いを聞いたり、世間話をしたりする中で顔なじみとなれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の想いを入居相談の段階で入居を決するに至るまで気持ちを伺う。よりよいサービスが提供できるようにご家族様の気持ちに寄り添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の主訴から必要な支援は何かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	工作、季節ごとの壁の飾りつけをどの様にしていくか、家事も一緒に台所に立ち野菜を切ったり、食器を拭いて頂いたりお互いに支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来て頂ける環境にあるが、今はコロナの為に玄関先での面会としているが、家族の協力の支援を提案している。随時相談・報告を行っているように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス利用の友人・家族にはいつでも会えるよう支援していたり入居前は近所の知り合いの方と階が違うので交流を図る為、行き来が出来る様支援している。	コロナ前は1階のデイサービス利用者とイベントに参加するなど交流をしていた。介護相談員が年に1回訪問してくれていた。向かいのコンビニエンスストアにおやつを買いにいき、馴染みの関係になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	塗り絵、唄、カラオケ等皆さまで一緒に行っていることもある。個々で楽しんでいる方も居る。利用者様の仲介も声掛け、見守りして孤立の無い支援を努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の施設に転居後も情報提供したり、他の施設を回った時に職員、ケアマネージャーに様子を伺うなどの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の支援を理念に掲げて居室でゆっくりされたい方は居室で横になられたり、自由な時間を過ごされている。起床時間、入床時間、入浴の意思等自己決定を促すよう心掛けている。	その人のペースを大切にする支援を心がけていて、無理強いしないようにしている。表出困難な利用者には答えが2択の質問をし、うなずきで思いを汲み取ったり、得た情報は申し送りノートで職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族から居室介護支援のケアマネージャーから情報提供して頂いたり居宅へ伺う事で生活環境を本人との会話の中で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報で把握に努めているが本人の様子を観察したりは無しを傾聴しその人となりを探している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向、本人の意向のハッキリとある方達ばかりではないので、密に職員同士話し合ったり、その報告を家族に伝えたり本人にとってより良い暮らしのケアの作成ができるよう努めている。何気ない会話の中から引き出せるよう努めている。	計画作成者と担当の職員、参加可能な職員でミニカンファレンスを行なっている。モニタリングは計画作成者が中心となり随時行なう。家族には現在は電話で意見を聞いて介護計画に反映している。看護職員が週に1度利用者の様子を見ているので意見をくれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録などで日々の問題点を探ったりカンファレンスを聞き、情報の共有化、問題点等の共有化を図ったり実践状況を見て介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスに限らず以前は親交のある学校への訪問への訪問等行っていたが、コロナ禍にある今はお弁当をテイクアウトしたりして楽しみを別の形で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と近くの商店などに出掛けて好きな物を購入していたが、コロナ禍にある今は要望のあった物等を職員が代行購入したり、御家族様に購入依頼をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター契約を結ぶ内科・整形外科には職員が受診支援、本人家族の不安要望を主治医に伝えたり、御家族様同行をお願いしたり適切な治療が行われるよう支援している。受診結果は松葉便り、電話、面会時などで報告している。	ほとんどの利用者が協力医にかかり、職員が受診の支援をしている。精神科や整形外科などの他科受診は家族に対応してもらっている。歯科とは往診の契約をしていて、必要時に来てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な観点での気付きや心配事など書留、看護師に伝えて指示を仰いだり、分からない事を説明して頂いたり連携を図り、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの様子を伝え、入院先に足を運び、担当看護師から情報を得る事で退院に向け準備をしている。また相談員には入院の際にはホーム利用者であることを伝え、あいさつしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を伺って主治医との連携を密にしながら看取りのケアを行ったり、他の施設への紹介等している御家族様と職員とで何回も話し合ったり、ここでの生活で出来る事、出来ない事を伝えるなどしてよりよい支援・体制を整えて頂いている。	看取りについての指針を契約時に説明しサインをもらっている。体調の変化から終末期が近づくにつれ協力医に相談し、家族に医師からの意見を伝え、今後の対策を話し合い、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される講義などあれば参加するように努めている。そこで学んだことを職員に周知し急変時には、どの職員でも対応できるように日頃から構えをするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練には地域住民の協力を得て避難訓練を行っている。施設単体での訓練も行っている。職員全員が対応できるように取り組みでの利用者様をどのように対応するか事前に把握している。	訓練は地域の避難訓練と同じ日に行い、事業所は地域の避難所になっているので、地元住民が来参加している。事業所独自に年に1回、地震火災の夜間想定訓練を行なっている。備蓄は200食本部から袋井のケアセンターに支給されて保管されている。	発電機と備蓄が袋井のケアセンターに保管されているので、緊急の時の対応を明確にし、すばやく対応できるようにしてください。災害の想定が限られているので、さまざまな場合を想定して訓練されるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり「その人らしさ」を大切にしその人に合った言葉遣いを心掛けている。声のトーン速さ人それぞれの感じ方が違う為、職員それぞれ注意している。	利用者は会話ができる方が多いので、本人の意思や要望を大切に聞いて支援している。尊厳やスピーチロックについて、気になることは職員同士で注意しあっている。法人で定期的に研修を行っていて、職員は全員受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔の表情、非言語行動を観察しながら本人の想いを尊重し日常生活において自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先するのではなく利用者優先であることを認識し本人のペースを大切にして無理強いはいしないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛をとく時、衣類を選ぶ時、本人の思いが聞ける方は伺う。思いが言えない方は同じ服装にならないよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい物は温かく提供し、好みを取り入れている。お茶、汁物、盛り付け等利用者と一緒にしようとしている。	開設当初より、食事は手作りを継続している。ユニット毎に当番制で献立を考え、食材を注文し、受け取りに行っている。利用者には包丁を使ったり調理したり、できることを積極的にお願いしている。月に1~2回の手作りおやつで食の楽しみを増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水の分量、食事量のチェック、適量の確保が出来ているか確認。刻み、トロミ、治療食など一人ひとりの状況、習慣に合わせたものの提供をしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導を行なっている。自分で出来ない方は職員が介助を行っている。自分で磨いている方でも上手くできない方は職員が磨き直しを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方にはトイレが終わった際、コールボタンを押してもらっている。座位が保てず立ち上がりのある方は危険な為、職員が見守りを行っている。	排泄チェック表に記録し、日中はできるだけトイレでの排泄を支援している。体調によっては夜間のみポータブルトイレの利用者もいる。トイレのドアがアコーディオンドアになっていて、開閉が困難な利用者にはナースコールや声で呼んでもらうようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞る影響を常に認識し定期排便があるように気を配る。水分量が少ない方は水分量をチェックし水分摂取量の確保をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月曜日から金曜日の週2回の入浴が実施されている。行事でその日に入れない時は日曜日などに入浴していただくこともある。入浴時間は14時～15時半までとしていて、夕方以降の入浴は職員の人員と利用者の安全確保の観点から行っていない。	浴室は広く、タイル張りで銭湯のような感じで、仲の良い女性利用者同士2～3人で入浴することもある。また、温泉のお湯を運んでもらい楽しむこともある。通常は週に2回午後の時間帯に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず利用者ペースで休息を取られている。昼夜逆転等、不眠につながらないように支援しているが今までの生活習慣などもあるので無理強いはいしていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師との連携により個々の処方される薬の情報を職員全員が把握できるようにしている。薬が変更になった場合などは別の用紙に記入して周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る事を役割を持って職員と関わり合いながら調理を手伝って頂いたり洗濯物たたみ、洗濯物干し、食器拭き等やって頂ける様支援している。好きな菓子などおやつの際に提供し気分転換に外出、散歩、他館への同行等を行っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の様子を見ながら、散歩、外気浴を行っている。以前は外食、花見なども行っていたが、コロナ禍により今は滞っている。外食の代わりに利用者様と相談の上、テイクアウト等を行うようにしている。	天気の良い日は施設周辺を利用者の体調や体力を考えて、散歩をしている。近くのコンビニエンスストアにおやつを買いに出掛けたり、外食が困難な為テイクアウトのお弁当チランを見て選ぶ楽しみを増やしている。コロナ前は外食、花見などの季節の外出やドライブをしていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人で管理できる方は自分で持たせているが管理のできない方には安心していただくようお願いしている。必要な時に使えるとお話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を送って来られるご家族様には返信するための支援を行っている。利用者様から手紙を出す際にはポストへの投函を職員が行う。電話をかけたい希望がある時は、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・整理整頓に心掛け歩きやすく安全に歩行器、車イスなども動かせるよう気を付けている。室温、湿度に配慮し状況に応じてカーテンの開け閉め、エアコンの調整を行っている。	施設内は清掃が行き届いていて、利用者もモップがけや掃き掃除をしてくれる。施設の周りは高い建物がないので、居間は日当たりがよく明るく、風が通り眺めがよい。季節を感じる掲示物や利用者の作品も壁に掲示してあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角にテレビを配置し、見られるよう席の位置など工夫している。ホールのテーブルで気の合う方達と触れ合えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビ、机など置かれている。ご自宅と同じような環境で生活していただけよう入居前にはご家族様には家にある今まで使っていた物を持って来て頂くよう話をし利用者様が居心地よく過ごせるよう支援している。	洗面台とクローゼットが設置されている。使い慣れたタンス、テレビ、椅子が持ち込まれ、壁には利用者の好みで自分の作品が飾られている部屋などがある。利用者の中には携帯電話を所持して自由に電話をかけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を記入し目で自分の居室があることを分かるようにしている。安全に部屋の中を行き来できるようその方に合った間取りに工夫している。動線を考えた家具の配置を工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家		
所在地	静岡県袋井市大野2730番地の4		
自己評価作成日	2020/11/16	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600315-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 12月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として係ることであることすべてのことを出来る限り家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。その為には、御家族の協力を得、相談・報告を密にするよう心掛けています。理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き、押し付けや拘束の無い自宅にいるような気持ちで生活できるように支援していきます。日々の介護の中で医療認知症接遇について沢山学びそれを知識として取り入れ利用者様と嬉しいこと悲しい事を共有し介護を楽しんでいます。誠心誠意のサービスを提供し地域の皆様の福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「自己決定の支援」「介護に学び介護を楽しむ」「地域の駆け込み寺となろう」を掲示し、職員に共有、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は自治会の方と一緒にコミュニティセンターで行われるでんでん体操へ参加していたが今は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は中学生高校生の職場体験を受け入れて認知症の方に直接肌で感じて頂いていた。コロナ禍からボランティアの受入れ等は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や提案、指摘事項について職員に知らせ話し合いをしてサービス向上の為に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関しての相談や報告に通して市の担当者との関係を築いている。ホームの事情や取り組みを報告し防災など他の部署への橋渡しを担って頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合いをし正しく理解をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全を守る為、施錠せず玄関は手動としている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられている。職員は意識して虐待防止に努めている。また、法人には関係者への通達や取調のシステムが出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者個人の必要性が生じた場合に制度活用に向けて関係機関への連絡相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時、ホームの特色など含め契約内容の説明を十分している。契約内容変更の時には事前に説明を行い理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回お便りとして配布させて頂いている(松葉便り)では近況報告とともに写真を取り入れカラー印刷することによりビジュアルで伝えることが出来ている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要な時には随時個人面談を行い要望や提案を受けようとしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当が与えられるなど意欲向上が図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けている。研究補助規定を設け、各種研修参加を推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他の事業所の管理者と情報交換の機会があり、その内容を事業所の職員に報告している。また職員は勉強会、研修会などを通して交流を図りサービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に官界か本人と会う機会を設け、本人の想いを聞いたり、世間話をしたりする中で顔なじみとなれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の聞き取りの段階で家族のこれまでの想いや今後の要望を聞きとり、また来設時には近況を報告するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の主訴から必要な支援は何かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と一緒に家事を行ったり日課相談するなど暮らしを共にするものとして接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にはご家族とホーム側との双方で本人の支援をしていけるように伝え場面場面で相談や報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所の方の訪問を受けたり、デイサービスの顔なじみの方への訪問したりしている。コロナ禍で回数を制限している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを仲介する事で思いやりや会話が弾んで他の方が笑顔にさせて下さることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他の施設へ転居後も情報を提供したり面会して励ましたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはホームに対する要望や生活の意向を聞き、サービス計画書に反映させている。また生活の中で利用者様の真の思いを感じ取り日々支援に当たっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活の希望を把握し、また出来る事出来ない事を把握することに努めケアに連動させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報で把握に努めるが、入居後からも本人の様子を観察把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一番重要なことは本人との話し合いと言う点でなかなか把握しきれない事が実情としてある。日々表情や言葉の中から察し把握するよう努め介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりの日々の様子については介護記録、介護経過、申し送りノートに記入して職員間で情報を共有している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスにとらわれず、社会資源を含めた多種多様なサービスを利用者様のニーズに合わせた提供を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの近くにある商店に行き買い物をしたり、地域のコミュニティセンターの行事に参加したり社会の一員としての生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとなっている内科医・外科医・歯科医の受診を支援している。受診結果は詳細に記録している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や症状の悪化が見られたときは主治医に相談し、また家族への相談を行い早期の受診や検査が行えるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には同行し、日頃の様子を病院側に報告し入院中には治療経過を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の進行に応じて主治医と家族の間で話し合いを持ち、今後の生活の方針や事業所で出来るケアを伝えながら決めていき支援体制を整えていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置法は看護師に教えを仰いだり実践で役立てられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域避難訓練実施日には地域住民の協力を得て避難誘導訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や性格を把握し一人ひとりその人らしさを大切にその人に合った言葉遣い対応をこころがけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望、不安の訴えにはしっかりと浮き合い傾聴しそのうえで自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務は一日の中で行えればよいという考えをし、生活の主体は利用者であることを頭に入れて職員の都合ではなく本人の希望や訴えを優先するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来設があったり、外出時や入浴時の服選びを手伝うなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成日、食べたい物を聞き取りながら、食に関心を持って頂き食欲が沸くような対応に勤めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし、お茶などを飲むように勧め適量確保されているか確認している。刻みやミキサー・トロミなど本人に合った食事形態を見極め対応している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ずつ行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方にはトイレが終わった際にコールボタンを押してもらうように伝えており、コールと共に職員が駆けつけアコーディオンカーテンを引くようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調変化等は主治医から説明を受けている為水分摂取量に気を配りながら、見極めをしっかりとるよう排尿排便表にチェックして毎日気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水曜、土曜、日曜を除く午後に行われ、週2回の入浴だが本人の希望を取り入れている。気の合った人と楽しく入りたいという希望に応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の日課等を把握し、ベッド使用布団使用の選択は自由でまた慣れた家具を持ち込んで頂き安眠を促すようにしている。日中はソファで傾眠されている利用者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医への受診の際には薬について説明を受け薬剤師には服薬時の注意事項の説明を受けている。薬についての気付きや疑問についてはその都度連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事や好きな事を把握し日々の生活の中で力を発揮してもらっている。散歩や他館へのお遣い同行や買い物には出かけ気分転換を図っている。コロナ禍で買い物同行は見合わせている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物、出掛けたり行事を通して季節を感じていただけるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理は金庫に保管しているが、本人同行の買い物の際に利用者に支払が出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用して頂いている。職員が取次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに花を飾ったり日中は蛍光灯を最低限の点灯にして刺激を軽減したり壁に季節感のある飾りつけをしている。利用者が書いた塗り絵の展示をし自信に繋げて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビ観賞したり、設置しているソファに座りゆったり歓談できるよう工夫している。気の合う方と座れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む物に制限は無く、本人が慣れ親しんだものや必要なものを自由に持ち込むことができる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の色々な場所に案内を上げている。トイレ、浴室、自室、入口など。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家		
所在地	静岡県袋井市大野2730番地の4		
自己評価作成日	2020/11/16	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600315-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 12月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として係ることであることすべてのことを出来る限り家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。その為には、御家族の協力を得、相談・報告を密にするよう心掛けています。理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き、押し付けたり、拘束の無い自室にいるような気持ちで生活が出来る様支援し皆様の好きな食事等も手作りで御利用者様がかかわれるような家庭的な支援をしています。生活の中で利用者様に介護の事を学ばせて頂きながら、誠心誠意のサービスを提供し地域の福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つに「地域の駆け込み寺になろう」があるが地域で介護困難になって待っているご家庭の駆け込み寺になっている。満床時は他の施設等に紹介している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方と一緒にでんでん体操に参加していたが、コロナで今は参加出来ていない。散歩に出かけて近隣の方と挨拶を交しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職場体験の受入れに認知症の方との直接触れ合ってもらったり、生活ボランティアの受入れも行っているが、コロナで自粛している。コロナ終息後は、以前の通りに受け入れをしていく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見・提案・指摘事項については職員に知らせ話し合いをしてサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関して相談や報告を通して市の担当者との関係を築いている。ホームの事情や取り組みを報告し防災など他の部署への橋渡しを担って頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合いを正しく理解し身体拘束しないケアに取り組んでいる。利用者様の安全を守るためには出入口は階段もあり、道路沿いということで玄関の開閉は自動ではなく、手動にしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられている。職員は意識して虐待防止に努めている。また、法人には関係者への通達や取調のシステムが出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者個人の必要性が生じた場合に制度活用に向けて関係機関への連絡相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時、ホームの特色など含め契約内容の説明を十分している。契約内容変更の時には事前に説明を行い理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回お便りとして配布させて頂いている(松葉便り)では近況報告とともに写真を取り入れカラー印刷することによりビジュアルで伝えることが出来ている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要な時には随時個人面談を行い要望や提案を受けようとしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当が与えられるなど意欲向上が図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けている。研究補助規定を設け、各種研修参加を推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他の事業所の管理者と情報交換の機会があり、その内容を事業所の職員に報告している。また職員は勉強会、研修会などを通して交流を図りサービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に官界か本人と会う機会を設け、本人の想いを聞いたり、世間話をしたりする中で顔なじみとなれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の想いを入居相談の段階で入居を決するに至るまで気持ちを伺う。よりよいサービスが提供できるようにご家族様の気持ちに寄り添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の主訴から必要な支援は何かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	工作、季節ごとの壁の飾りつけをどの様にしていくか、家事も一緒に台所に立ち野菜を切ったり、食器を拭いて頂いたりお互いに支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来て頂ける環境にあるが、今はコロナの為に玄関先での面会としているが、家族の協力の支援を提案している。随時相談・報告を行っているように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス利用の友人・家族にはいつでも会えるよう支援していたり入居前は近所の知り合いの方と階が違うので交流を図る為、行き来が出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	塗り絵、唄、カラオケ等皆さま一緒に行っていることもある。個々で楽しんでいる方も居る。利用者様の仲介も声掛け、見守りして孤立の無い支援を努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の施設に転居後も情報提供したり、他の施設を回った時に職員、ケアマネージャーに様子を伺うなどの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の支援を理念に掲げて居室でゆっくりされたい方は居室で横になられたり、自由な時間を過ごされている。起床時間、入床時間、入浴の意思等自己決定を促すよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族から居室介護支援のケアマネージャーから情報提供して頂いたり居宅へ伺う事で生活環境を本人との会話の中で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報で把握に努めているが本人の様子を観察したりは無しを傾聴しその人となりを察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向、本人の意向のハッキリとある方達ばかりではないので、密に職員同士話し合ったり、その報告を家族に伝えたり本人にとってより良い暮らしのケアの作成ができるよう努めている。何気ない会話の中から引き出せるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録などで日々の問題点を探ったりカンファレンスを聞き、情報の共有化、問題点等の共有化を図ったり実践状況を見て介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスに限らず以前は親交のある学校への訪問への訪問等行っていたが、コロナ禍にある今はお弁当をテイクアウトしたりして楽しみを別の形で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と近くの商店などに出掛けて好きな物を購入していたが、コロナ禍にある今は要望のあった物等を職員が代行購入したり、御家族様に購入依頼をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター契約を結ぶ内科・整形外科には職員が受診支援、本人家族の不安要望を主治医に伝えたり、御家族様同行をお願いしたり適切な治療が行われるよう支援している。受診結果は松葉便り、電話、面会時などで報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な観点での気付きや心配事など書留、看護師に伝えて指示を仰いだり、分からない事を説明して頂いたり連携を図り、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの様子を伝え、入院先に足を運び、担当看護師から情報を得る事で退院に向け準備をしている。また相談員には入院の際にはホーム利用者であることを伝え、あいさつしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を伺って主治医との連携を密にしながら看取りのケアを行ったり、他の施設への紹介等している御家族様と職員とで何回も話し合ったり、ここでの生活で出来る事、出来ない事を伝えるなどしてよりよい支援・体制を整えて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される講義などあれば参加するように努めている。そこで学んだことを職員に周知し急変時には、どの職員でも対応できるように日頃から構えをするよう努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練には地域住民の協力を得て避難訓練を行っている。施設単体での訓練も行っている。職員全員が対応できるように取り組みでの利用者様をどのように対応するか事前に把握している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり「その人らしさ」を大切にしその人に合った言葉遣いを心掛けている。声のトーン速さ人それぞれの感じ方が違う為、職員それぞれ注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔の表情、非言語行動を観察しながら本人の想いを尊重し日常生活において自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先するのではなく利用者優先であることを認識し本人のペースを大切にして無理強いはいしないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛をとかす時、衣類を選ぶ時、本人の思いが聞ける方は伺う。思いが言えない方は同じ服装にならないよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい物は温かく提供し、好みを取り入れている。お茶、汁物、盛り付け等利用者と一緒にしようとしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水の分量、食事量のチェック、適量の確保が出来ているか確認。刻み、トロミ、治療食など一人ひとりの状況、習慣に合わせたものの提供をしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導を行なっている。自分で出来ない方は職員が介助を行っている。自分で磨いている方でも上手くできない方は職員が磨き直しを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方にはトイレが終わった際、コールボタンを押してもらっている。座位が保てず立ち上がりのある方は危険な為、職員が見守りを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞る影響を常に認識し定期排便があるように気を配る。水分量が少ない方は水分量をチェックし水分摂取量の確保をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月曜日から金曜日の週2回の入浴が実施されている。行事でその日に入れない時は日曜日などに入浴していただくこともある。入浴時間は14時～15時半までとしていて、夕方以降の入浴は職員の人員と利用者の安全確保の観点から行っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず利用者ペースで休息を取られている。昼夜逆転等、不眠につながらないように支援しているが今までの生活習慣などもあるので無理強いはいしていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師との連携により個々の処方される薬の情報を職員全員が把握できるようにしている。薬が変更になった場合などは別の用紙に記入して周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る事を役割を持って職員と関わり合いながら調理を手伝って頂いたり洗濯物たたみ、洗濯物干し、食器拭き等やって頂ける様支援している。好きな菓子などおやつの際に提供し気分転換に外出、散歩、他館への同行等を行っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の様子を見ながら、散歩、外気浴を行っている。以前は外食、花見なども行っていたが、コロナ禍により今は滞っている。外食の代わりに利用者様と相談の上、テイクアウト等を行うようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人で管理できる方は自分で持たせているが管理のできない方には安心していただくようお願いしている。必要な時に使えるとお話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を送って来られるご家族様には返信するための支援を行っている。利用者様から手紙を出す際にはポストへの投函を職員が行う。電話をかけたい希望がある時は、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・整理整頓に心掛け歩きやすく安全に歩行器、車イスなども動かせるよう気を付けている。室温、湿度に配慮し状況に応じてカーテンの開け閉め、エアコンの調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角にテレビを配置し、見られるよう席の位置など工夫している。ホールのテーブルで気の合う方達と触れ合えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビ、机など置かれている。ご自宅と同じような環境で生活していただけるよう入居前にはご家族様には家にある今まで使っていた物を持って来て頂くよう話をし利用者様が居心地よく過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を記入し目で自分の居室があることを分かるようにしている。安全に部屋の中を行き来できるようにその方に合った間取りに工夫している。動線を考えた家具の配置を工夫している。		